

事業計画書

事業名	地域の高齢者が安心して暮らしていける場をみんなで考え作っていく事業
場所	沼津市 今沢 地内
実施予定期間	平成28年7月1日 ~ 平成29年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年7月上旬 本年度の活動についてのNPOスタッフの打ち合わせ（NPO法人事務所） 参加人数：10名 実施内容：活動、日程についてNPOスタッフで確認し、役割分担を行う。 ・平成28年8月上旬 シンポジウム「認知症当事者の声から私たちが学ぶこと（仮）」に向けての富士宮市訪問、ゲストとの打ち合わせ（富士宮） 参加人数：4名 実施内容：平成29年3月のシンポジウムに向け、行政担当者と認知症当事者と面談、打ち合わせを行う。 ・平成28年8月下旬 シンポジウム「認知症当事者の声から私たちが学ぶこと（仮）」に向けての東京訪問、ゲストとの打ち合わせ（東京） 参加人数：4名 実施内容：平成29年3月のシンポジウムに向け、日本認知症ワーキンググループのメンバーと面談、打ち合わせを行う。 ・平成28年9月中旬 聞き書きワークショップの開催 実施場所：今沢地区センター会議室 参加対象：介護・医療の専門職、他関心のある一般の方 定員：20名程度 実施内容：介護現場における利用者とスタッフとの関係性を深めていくためのツールである聞き書きについての講義と、グループによる聞き書きの体験ワークショップを行う。 ・平成28年10月下旬 認知症の人と共に生きる地域づくりの実践をしている富士宮市への視察 参加対象：NPO法人スタッフ、中今沢結いの会メンバー、他一般の方 定員：10名程度 実施内容：富士宮市がどのように認知症の人と共に生きる地域づくりをしているのか、実践の場を見学して学ぶ。 ・平成28年11月中旬 ユマニチュード入門コース研修会 実施場所：今沢地区センター会議室 参加対象：沼津と静岡県内の介護・医療の専門職 定員：20名 実施内容：認知症ケアの技法・ユマニチュードの指導者を招き、入門コース研修会を沼津で実施し、ユマニチュードの普及を図り、沼津を含め静岡県

の介護医療の現場における認知症ケアの充実を目指す。

・平成 29 年 1 月上旬

シンポジウム「認知症当事者の声から私たちが学ぶこと（仮）」の募集開始

実施内容：チラシの配布、関連団体や登録メンバーへのチラシの発送、NPOのホームページの公開

募集方法：電話、ファックス、メール

人員配置：シンポジウムに関わる事務作業を行うスタッフ（アルバイト）が担当

・平成 29 年 2 月下旬

中今沢結いの会での認知症研修の開催

実施場所：中今沢公民館

参加対象：中今沢結いの会のメンバー、その他の中今沢地域住民

実施内容：認知症の人とともに生きる地域づくりのための啓蒙として、NPOスタッフから認知症の当事者をめぐる様々な動きについての情報・資料の提供を行いながら、地域住民とともに認知症についての勉強会を行う。3月のシンポジウムへの事前勉強会でもある。

人員配置：NPOスタッフ2名が担当

・平成 29 年 3 月下旬

シンポジウム「認知症当事者の声から私たちが学ぶこと（仮）」

実施場所：プラサヴェルデ ホールB

参加対象：認知症当事者、家族、介護・医療専門職、他一般の方
定員 250 名程度

実施内容：前半では、認知症の当事者の声を受けとめて認知症の人たちが生きやすい社会づくりを実践している富士宮市からのゲスト・認知症当事者と行政担当者に実践活動の紹介をしてもらい、認知症の人とともによりよく生きる地域づくりについての参考にする。

後半では、政府の認知症政策への提言を行っている認知症当事者による日本認知症ワーキンググループのメンバーにもパネリストとして参加してもらい、認知症の人だけではなく、当事者が発言していくことによりどのように社会を変えていけるのか、を議論していく。

人員配置：NPOスタッフ約 20 名が会場設営、受付、進行などを行う。

事業効果

今年3月26日にNPOユートピア主催の「ユマニチュードを知ろう：愛情を伝える認知症ケアの技法」には230人の方たちが参加され、認知症への関心の高さを改めて実感できた。会場の定員によりお断りした人たちも含めると、300人近い参加希望者があったと思われる。参加者の比率では介護現場で働く方たちが過半数を占め、日々向き合う認知症への関心の高さが窺える。その内訳は医師・看護師・介護福祉士・社会福祉士・理学療法士等の専門職である。その他には認知症等の介護をされている家族、民生委員、地域での介護支援を考える住民といった多彩な方たちの参加があった。これほど多彩な方たちの参加を見ると、高齢化社会への関心が高まる中で今回のような開かれた講演や研修が少なかったことを感じている。職能団体ごとの閉じられた研修や行政主導の問題解決型（認知症の徘徊への対策的研修等）はあるが、NPOユートピアは本質的な認知症への理解や、誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える研修や講演がもっと必要だと考える。28年度の活動を通じて、「ユマニチュードを知ろう」に参加された方たちと地域のネットワークを培い、28年度の最後に行うシンポジウム「認知症当事者の声から私たちが学ぶこと（仮）」に前回を超える300人以上の参加を実現し、これからの高齢化社会を共に考える地域づくりに取り組んで行く。

<p>公益性</p>	<p>本事業において実施するシンポジウム、研修会、ワークショップは、介護医療の専門職だけではなく、一般の地域住民に開かれたものであり、それによって、様々な立場の住民が共に地域の介護の在り方を考えていく場を作っていくものである。</p>
<p>発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金を受けることによって、地域住民がシンポジウムや研修会、ワークショップに安価な料金で参加でき、より多くの住民の参加を促すことができる。 ・ 平成 29 年 3 月に開催を企画しているシンポジウムに向けて、事前打ち合わせ、事前勉強会、視察等の準備を充実させることができる。
<p>地域性</p>	<p>NPO 法人の事務局のある中今沢では、平成 26 年に、地域の住民自らによる、高齢者の生き方と介護を考える「中今沢結いの会」が発足し、自主的に学習会を開いたり、「見守り・声かけ」の体制作りを進めている。今回の事業では、中今沢結いの会と連携しながら、地域の住民への啓蒙活動や情報提供、情報交換を行い、地域の高齢者が安心して暮らしていける場づくりの実践の支援も行っていく。</p>
<p>必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症や高齢者介護は、急速な高齢化の進む地域の住民にとって、自らの問題として考えていかなければならないテーマであるとともに、介護保険の度重なる改正により、これからは地域住民自らが主体的に考え、関わるものが求められる課題である。 ・ これまで、社会福祉協議会や地域包括支援センター等により介護医療の専門職向け、あるいは一般住民向けのケアに関わる講演会や研修会は行われてきたが、地域住民自らが主体的に考えたり、企画したりする場としては行われてこなかった。 ・ そのため、今回の事業では、企画・運営にも地域住民に積極的に関わってもらうことで、地域のケアについて地域住民自らが主体的に考えていくための地盤づくりにつなげていく。
<p>先導性</p>	<p>本事業の実施にあたって大切にしたのは、地域住民の要望をどうくみ取り、反映していくか、ということである。それが、地域住民自らが課題に取り組むための動機づけにもつながっていくと考えるからである。具体的には、昨年度の NPO 主催の認知症講演会でのアンケートから要望を抽出するとともに、中今沢結いの会の事務局との話し合いにより、事業内容を絞り込んだ。</p>
<p>継続性</p>	<p>来年度もステップアップ型事業の継続の申請を行い、地域ケアの課題に対応する講演会や研修会を企画していく予定である。</p> <p>この事業の継続的实施を通して、専門職も含めた地域住民のネットワークを構築し、ケアにかかわる地域の課題を継続的に話し合う体制を整えていくことにより、地域の高齢者が自ら中心となって担う高齢者サロンの整備につなげていきたい。</p>